

日中友好南京柔道館との交流事業報告書(2011年9月 派遣)

2011年9月20日

副理事長 橋本敏明

1. 期間 2011年9月8日(木)～11日(日)
2. 派遣先 南京市重競技運動学校内の中日友好南京柔道館
3. 派遣者 はしもとしあき橋本敏明(副理事長 東海大学体育学部教授 東海大学柔道部長)
あないらよへい穴井亮平(東海大学大学院体育学研究科院生 東海大学柔道部コーチ
了徳寺学園)



教則本の実技者(4人の女子)と、橋本(左) 常東(中央) 穴井(右)

4. 概要

[1日目 9月8日(日) 晴れ→南京は曇り]

13:00 成田空港から中国東方航空(China Eastern Airlines)・MU776便で南京へ出発。現地時間の15:45に着く。時差は1時間(日本時間から遅らせる)。出迎えの常東君が遅れたので、日本へ待ち合わせの確認電話をした。蒸し暑いことを予想していたが、空はどんよりと曇っており、さほど暑さを感じなかった。出迎えの車でホテルへ行く。

ホテルは、南京市重競技運動学校近くのGRAND METRO PARK HOTELである。ロビーで南京日本人会会長の兎澤和広氏(南京で会社経営・仁和館商貿有限公司)の出迎えを受け、橋本の部屋で2日間の日程、柔道教則本の写真撮りについて打合せを行う。カメラマン、及び実技を行う運動学校の女子学生(2名)を紹介される。なお、南京柔道館館長で運動学校主任のLIU Junlin(劉)先生が体調を崩されて検査入院されたという知らせに

驚く。心配である。

夜、パークホテル向かいのビルにある中華料理店で私達の歓迎会が催された。運動学校の王慶校長、男子監督(男性)、女子監督(男性)、女性コーチ、事務長(女性)、兎澤氏、常東君と再会を喜び合い、歓談した。



王校長を囲んで

[2日目 9月9日(金) 曇り]

南京市重競技運動学校(12Lifu Street Zhongshanmen, Nanjing)の女子柔道場(中日友好南京柔道館)において、午前9時から午後4時まで、中国語で出版を企画している柔道教則本(「柔道入門」)の写真撮りを行なう。実技は、南京柔道館の2人の女子会員と運動学校の女子学生2人である。通訳は、南京在住の女子学生(伊藤さん)が担当する。

写真撮りは、照明などが準備された場所において、橋本の指示で穴井と常東の両君が実技の模範などを示しながら進める。900枚以上撮影し、約250枚程度を選んだと言っていた。翻訳は兎澤氏が担当される。さすがに午後は、全員に疲れの色が見えた。

夜の19時から21時までが南京柔道館の練習時間で、休み前の金曜日ということで、約100名が集まり、子供から大人まで、見学の保護者を含めて大層な賑わいで、活気があった。ゲーム的要素を入れた運動、準備体操、受け身、打ち込みなどでおよそ1時間を費やす。その後、穴井君が得意技の体落を中心に説明し、沢山の質問を受けていた。常東君が、人数が増えて指導が大変だと嬉しい悲鳴を上げていた。



[3日目 9月10日(土) 曇り]

午前は女子、午後は男子の練習に参加する。穴井君が乱取と得意技の体落を披露し、技のポイントを説明した。男子は試合前ということで、17歳の若手が主体の練習だった。女子の練習で、部内試合を観戦したが、最も有望な選手が投げられた時に肘を痛める怪我をした。試合は直ぐに中止されたが、指導者は痛手と言っていた。心配である。

穴井君が修士論文でまとめている南京柔道館の保護者の意識調査結果などを常東君に説明する。

夜は、市内繁華街の中華料理店で王校長が夕食会を開いて下さる。今回の受入への御礼を述べ、歓談した。



[4日目 9月11日(日) 日本は晴れ]

早朝の5時30分頃、ホテルを車で出発、空港へ向う。兎澤氏が見送って下さる。MU775便は定刻の8時10分に飛び立ち、成田空港に日本時間の12時7分に到着した。最後に、今回の所感を記す。

- ・日中友好南京柔道館は、会員数も増え活気があった。指導者(常東君を補佐する者を含め)の養成を組織的に行なっていくことが急務だろう。
- ・技能などの評価に関するシステムも考えることが必要だろう。兎澤氏に資料などを提供してもらい、日本でのシステムを参考に、原案を作成してみたい。
- ・柔道教則本の写真撮りは順調に進んだ。日本語の原稿は兎澤氏に渡してあるので、これから出版に向けて、翻訳、写真選び、出版社の選定などを進めていきたい。
- ・穴井君は修士論文作成に向けて、南京柔道館の現状と雰囲気、保護者の様子などがよく理解できたと思う。



運動学校入口(レスリング・柔道・ボクシング)